

(様式2)

学 校 関 係 者 評 価 報 告 書

愛媛県立みなら特別支援学校

(本校、松山城北分校)

学校番号 (51)

評 価 実 施 日		令和 8 年 2 月 26 日 (木)	
委 員	氏 名	所 属 等	備 考
	伊 藤 剛 志	社会福祉法人 馴鹿(となかい) トナカイ福祉交流館あい 施設長	学校評議員
	池 川 良 徳	東温市見奈良区長	学校評議員
	恒 岡 夕貴子	東温市教育委員会スクールソーシャルワーカー	学校評議員
	前 園 実知雄	法蓮寺住職	学校評議員
	武 智 一 郎	社会福祉法人 あゆみ学園 管理者	学校評議員
	日野林 茜 子	P T A会長 (本校)	
	日 根 潤一郎	P T A会長 (分校)	
	栗 原 真 琴	P T A副会長 (本校)	
	渡 邊 泰 正	P T A副会長 (本校)	
	米 倉 瞳	P T A副会長 (本校)	
	高 橋 道 裕	P T A副会長 (分校)	

評 価 ・ 提 言 等	提言等に対する改善方策等
○自己評価表について 各領域についてA評価が多く、日頃の教育活動の成果が分かる。結果を具体的に想起できる領域ではB評価が散見するが、評価における総論と各論という側面によるもので、焦って対処する必要はないと思われる。(本校) 数値目標を取り入れると評価が低くなる傾向があるが、それを明記し、現状を記述して今後の改善を期していくやり方は良いと考える。(分校) ○学習指導、児童生徒指導について こまめな学習評価、指導計画の確実な引継ぎ、関係教職員の日常的な情報交換など妥当であるが、そのためには基礎となる個別の計画や領域目標の明確化、アプローチの手段の共有が前提となるので、その方向で頑張してほしい。(本校) ICT利用だけでなく授業力を向上させ…という部分が良い。ICTを使うことが目的化しないのが大切である。 基本的生活習慣の項目で、生徒の状態や個別ニーズに応じた対応は教育活動の原点で、親や子供が『学校から軽く扱われている。ほっとかわれている。』と思わせることなく対処することが良い結果を生むと思う。(分校) ○進路指導、キャリア教育について キャリア教育に関しては、文面を見るとどうしても『働くこと』が大きな目標になっているように感じる。しかし、障がいの重い児童生徒のことを考えると、社会の中に参加してより生きがいを持って、主体的に生きる力・態度の育成というのをキャリア教育として理論づけて表記してもいいと思う。(本校) ○業務改善、職員の業務量について 学校現場での業務改善は大切ではあるが難しい側面もある。簡単ではないが、仕事内容の進捗度を可視化して、負担増である担当者の業務を他の者がどの時点からでも引継ぎができる体制づくりが望まれる。(本校) 児童生徒への誠実な思いと、特に今は本校化のための業務が超多忙な状況を招いている。業務についてトライアージを行い、ある程度は割り切ることで職員の健康を確保してほしい。(分校)	・評価が相対的に低い領域については改善の余地があるので、領域内の各項目について各方面からの意見を確認して改善に努めていきたい。 ・個別の計画や領域目標の明確化、アプローチの手段の共有について、校内で共通理解を図りたい。 ・様々な教材・教具の特徴を理解し、バランスよく利用することで、授業の改善・向上に努めたい。 ・これまでの児童生徒、保護者への対応について各教職員が今一度見直し、誠意ある対応に努めたい。 ・障がいの軽い生徒に対する『働くこと』への意識高揚が原因と考える。障がいの程度に応じた目標設定について検討したい。 ・非常に難しい問題であるが、業務量の公正化と情報共有によって、働きやすい職場づくりを目指したい。 ・松山城北特別支援学校の開設まで、あと1か月となった。職員全員の力を集結するとともに関係機関と最終確認により、いいスタートが切れるようにしたい。